総務企画課

子育て環境体験ツアーを初開催

移住・定住を検討している未就学児のいるご家庭を対象に、町の子育て支援施設や学校教育環境を実際に体験していただく「ぴっぷ町子育て環境体験ツアー」を開催します。

【比布町の子育て環境の特色】

ツアーでは、本町ならではの充実した支援や教育環境をＰＲします。

①比布中央学校…義務教育学校（1～9年生）として、切れ目のない一貫した教育を展開。

②充実の英語教育…学校法人田中学園と連携し、1年生からの英語教育を強化。

③こだわりの学校給食…ミネラルを重視し、ダシからすべて手作りで提供。

④手厚いサポート…妊娠中から出産後まで、子育て支援センターの相談員が親身に寄り添う体制。

Q とても良い取り組みだと思います。町外・町内から応募があるとのことですが、広報紙やインターネットでの周知だけで、これだけの応募が集まったのですか。

A 職員が旭川市内のスーパー等に直接足を運び、チラシの掲示・設置をお願いしました。チラシに掲載したＱＲコードから直接申し込めるようにしたことで、実際に手に取って「行ってみたい」と感じた方々からの参加につながっています。

商工観光課

グリーンパークぴっぷの次年度以降の運営方針

「グリーンパークぴっぷ」について、利用者の減少や財政負担の増大などを背景に、次年度以降の運営に関する方針案が示されました。

①町の基本方針（案）

・パークゴルフ場…令和8年度のシーズンをもって閉鎖する。

・キャンプ場…令和9年度以降も営業を継続する。

・テニスコート…今後の活用方法について引き続き協議する。

②閉鎖後の管理

パークゴルフ場のＡ・Ｂコースは、クマ対策として草刈り管理を継続する。

③方針決定の背景

・パークゴルフ場の閉鎖…ピーク時に約4・7万人だった利用者は、近年1万人未満に減少。年間約2、000万円の慢性的な赤字が続いており、施設の老朽化や芝の再生力低下も重なり、継続が困難と判断した。

・キャンプ場の継続…コロナ禍のアウトドアブームやフリーサイト拡張により利用者が増加。値上げ後も高い水準を維持しており、「遊湯ぴっぷ」への入浴客の波及効果も期待できるため継続する。

Q 利用者が減少する中、判断が遅すぎたと感じます。「町民の運動の場」という意識が判断を鈍らせた原因ではないでしょうか。

A 利用者がいるうちは続けたいとの思いがあったことは事実ですが、年間2、000万円近い赤字という財政負担を考えた時に限界であり、この教訓を今後の施設運営に活かしたいと思います。

Q 閉鎖後もＡ・Ｂコースの草刈りを継続するとのことですが、これまでのような高額な維持管理費がかかるのでしょうか。

A キャンプ場に隣接する場所のクマ対策（草丈30㎝以下を維持する草刈り）を行います。経費は削減される見込みであり、今後精査します。



議員研修報告

【7月21日開催】

青果振興会研修会



近隣でも盛んに行われているサツマイモ栽培について、また、出荷する際の苦労についてお話を伺いました。

サツマイモは連作体系に組み入れることも可能な作物で、近年の温暖化により北海道で盛んに栽培されているようです。

苗作りについては課題が残るものの栽培方法は着実に進化しているようです。また、製品化する際の傷についても修復技術が確立されつつあります。

今後、様々な活用が期待され、地域の活性化材料としても一役を担うものとして、栽培者が増えることも予想されます。

（植西（うえにし） 浩一（こういち） 議員）

【7月2日開催】

北海道町村議会議員研修会



はじめに関東学院大学法学部地域創生学科教授の牧瀬（まきせ） 稔（みのる） 氏から「地方議員への12の政策アイディアから人口維持を目指す実践事例」と題して講演がありました。人口減少は避けられないが、問題は「減ることではなく選ばれなくなること」である。限られた財源の中で政策の優先順位が必要と述べられました。

次にジャーナリストの須田（すだ） 慎一郎（しんいちろう） 氏から「どうなる政治・経済」と題して講演があり、失われた30年と言われる日本経済のなか、責任ある積極財政でどのように予算編成をするか期待されると述べられました。

（谷口（たにぐち） 雅浩（まさひろ） 議員）

【8月19日開催】

和寒町議会視察



本町議会の広聴・広報事業の向上を目的に、和寒町議会へ視察に伺いました。

各種団体との丁寧な懇談を重ねながら、そこで得られた意見を単なる要望で終わらせず、実際の政策実現へと結びつける熱意と姿勢に深く感銘を受けました。また、議会だよりでは、一般質問の掲載を見直すなど、文字数を大胆に絞り込んで町民の関心を惹きつける魅力的かつ分かりやすい紙面作りの工夫も大変参考になりました。

対話を続け、町民との協働で確かな成果を生み出す工夫は、今後の大きな学びとなりました。

（大熊（おおくま） 勝幸（かつゆき） 議員）

【8月18日開催】

町村議会広報研修会



議会広報紙における「町民の無関心」という問題は、情報の発信者と受け手の間にある深い温度差を象徴していると感じました。読みにくさの本質はデザインではなく、「その決定が町民の暮らしにどう影響するのか」という視点の欠如にあると感じています。無関心を打破するには、身近なテーマに飛び込み、町民の声が政策に反映された「手応え」を可視化して信頼関係を築くことが鍵となります。一方的な「報告」から双方向の「対話」へ転換し、地域の課題解決につなげる大切な視点を学んだ研修会でした。

（佐藤（さとう） 良彦（よしひこ） 議員）